



ほほえみ 第130号

暑さ寒さも彼岸までと言いますが、9月に入ってめっきり暑さも和らぎ過ごしやすくなりました。皆様は、いかがお過ごしでしょうか。真夏のオリンピック開催には、議論もありましたが、紆余曲折を経て終了しました。お祭り騒ぎとはなりませんでしたが、やれやれといったところです。新型コロナウイルス感染もデルタ株の問題はありますが、8月のピーク時と比べると少し勢いが和らいでいます。何事にも、陰と陽のように波があるものなのですね。

個人主義と集団主義

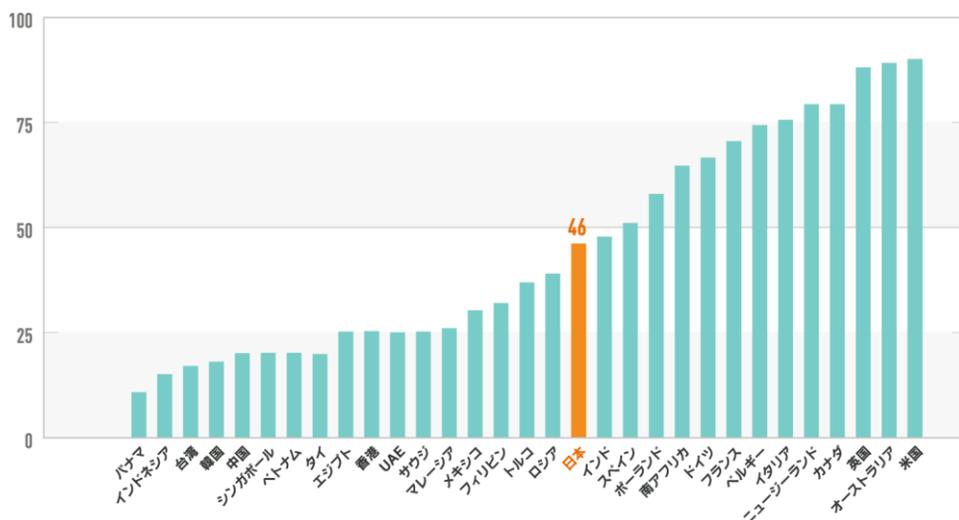
今月のニュースレターを書いていて、ぼっちキャンプのところを先に書いたのですが、ぼっち≡個人主義に関して、シーナ・アイエンガーが『選択の科学』に書いていたのを思い出しました。選択の科学に引用された大本となっているデータは、ホフステードの6次元モデルというものののですが、社会・文化を6つの要素で分析したものであり、①権力格差、②集団主義／個人主義、③女性性／男性性、④不確実性の回避、⑤短期志向／長期志向、⑥人生の楽しみ方(抑制的／充足的)が挙げられています。

②番目の集団主義／個人主義ということを見てきます。西欧社会が個人主義なのは了解できるのですが、わが国の位置づけがどこになっているかが、注目されるどころです。実際に、最も個人主義的な国は、予想通り米国、オーストラリア、英国でトップ3になっています。一方の集団主義的な国というと、パナマであり、選択の科学で引用された時にはグアテマラが挙げられていて、一般に中米諸国が特徴的なようです。集団主義的なのは、アジア諸国ではないかと思っていたので意外でした。

日本はと言えば、下のグラフを見ると、真中あたりです。西欧諸国のすぐ下辺りであり、思ったほど最近の日本はムラ社会ではありません。中国、韓国、台湾などは集団主義的なので、日本が他の東アジア諸国と違って、従来いわれてきたムラ社会から、個人主義的な社会に変化したのでしょうか。

日本は、西欧と異なって男女の社会でもないところに加え、世捨て人を風流と思う心性も手伝って、ぼっちを良しとする社会が生まれてきたのかと思います。

ホフステードの挙げた他の5つの分析も興味深いものなので、一度、ホフステードの書いたものを、きちんと読んでみたいと思います。



集団主義

個人主義

ヴァイトラクビの承認に関して

NTRKという遺伝子異常を含む癌に対して適応となっている薬剤です。ただし、NTRK遺伝子異常というものは、非常に出現する割合の低い遺伝子異常であり、個々の癌では、出現頻度が0.1-0.2%とされています。したがって、この薬剤に関しては、がん遺伝子パネル検査で、網羅的な遺伝子変異を調べてみて、遺伝子変異が該当した時に使うような薬剤になるかと思えます。

がん遺伝子パネル検査は、費用・時間もかかるものであり、現時点では腫瘍の検体も必要となっていますので、ご興味のある方があれば、ご質問いただければと存じます。



ぼっちキャンプ

ネーミングが絶妙です。一般的にはソロ・キャンプという呼び方が一般的かと思うのですが、お一人様でキャンプをすることを言います。タレントのヒロシさんが広めたとも言われており、気の向いた時に、最小限のキャンプ道具を持って一泊、二泊するというキャンプ・スタイルです。焚火を楽しむ、一人の時間を楽しむ、雨が降ってきたりする不便を楽しむという、家族や大勢でバーベキューでわいわい騒ぐというものとは趣が違います。

日本人はムラ社会と言われ、それに反して欧米は男女のペアが基本となった社会という風に言われてきましたが、日本ではムラ社会の次が、ぼっちの社会ということなのかもしれません。



ヒロシのぼっちキャンプ
放送は火曜日ですが、録画して水曜に見ています。

MEMO

9月のがん化学療法科の予定

9月2日	診療応援(平出先生)
9月7日	診療応援(佐々木先生)
9月9日	診療応援(平出先生)
9月14日	診療応援(工藤先生)
9月16日	診療応援(平出先生)
9月20日	敬老の日
9月21日	診療応援(佐々木先生)
9月23日	秋分の日
9月28日	診療応援(工藤先生)
9月30日	診療応援(平出先生)



おはぎと言えば、つぶあんかな？